

県営農免農道整備事業上条南部地区  
に伴う埋蔵文化財発掘調査概要（1）

## 富山市HS-07遺跡

1999年3月

富山市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、県営農免農道整備事業上条南部地区に伴うHS-07遺跡の発掘調査概要である。
- 2 発掘調査は、富山県農地林務部富山農地林務事務所の依頼を受けて富山市教育委員会が主体となって実施した。
- 3 調査期間  
現地調査 平成10年8月17日～平成10年9月16日  
遺物整理 平成10年9月17日～平成11年3月31日
- 4 調査にあたり、富山県埋蔵文化財センターの指導・助言を得た。
- 5 調査および本書の編集・執筆は、富山市教育委員会生涯学習課学芸員 近藤顕子が担当した。
- 6 調査の実施から報告書作成までの間に次の各氏から有益な助言と協力をいただいた。記して謝意を表したい。  
安達志津・井伊一野・宮田進一 (五十音順、敬称略)
- 7 遺構記号は、溝：SD、穴：SK、ピット：Pである。
- 8 出土品及び原図・写真類は、富山市教育委員会が保管している。

## 目 次

- I 遺跡の位置と環境
  - II 調査にいたる経緯
  - III 調査の概要
  - IV 遺物
  - V 小結
- 写真図版  
報告書抄録

## 挿 図 目 次

- 第1図HS-07遺跡と周辺の遺跡
- 第2図工事区域にかかる遺跡範囲
- 第3図遺構図及びエレベーション図
- 第4図基本層序
- 第5図遺構図及び遺構断面図
- 第6図出土遺物実測図(1)
- 第7図出土遺物実測図(2)
- 第8図出土遺物実測図(3)
- 第9図明治43年大日本帝国陸地測量部圓地形図

## 写 真 図 版 目 次

- 図版1 遺跡周辺の航空写真
- 図版2 調査区全景
- 図版3 調査状況
- 図版4 調査状況・出土遺物(木製品)
- 図版5 出土遺物(土器・陶磁器)
- 図版6 作業参加者

# I 遺跡の位置と環境

HS-O7遺跡は、富山市の東北部、水橋金広地区から水橋久金地区にかけて所在し、平均標高は9mを測る。この地区は西に流れる常願寺川の扇状地扇端部にあり、大辻山に水源を発する白岩川の右岸に位置する。明治38年に改修工事が行われるまでは白岩川が蛇行して流れ、現在みえる河岸段丘等の微地形を形成した。下流にあたる沖積平野部では、豊富な水資源を利用して早くから水田稲作が行われ、河川を利用した水運も発達していた。

遺跡の周囲には、白岩川の両岸および、上市川の河岸段丘の間に形成された微高地上に、縄文時代早期から近世に至る数多くの遺跡が存在する。縄文時代後期から晩期にかけては集落が営まれ、水橋金広遺跡では掘立柱建物を伴った集落跡が確認されている。



第1図 HS-O7遺跡と周辺の遺跡 (1:50,000)

1. HS-O7遺跡 2.宮塚古墳 3.若王子塚古墳 4.水橋中馬場遺跡 5.水橋田伏遺跡 6.水橋籠遺跡
- 7.清水堂A遺跡 8.清水堂B遺跡 9.清水堂古墳 10.清水堂小深田遺跡 11.清水堂南遺跡 12.清水堂宗平部遺跡
- 13.清水堂C遺跡 14.水橋荒町遺跡 15.水橋池田館遺跡 16.小出城跡 17.金尾新遺跡 18.水橋二杉遺跡
- 19.金尾遺跡 20.竹内遺跡 21.竹内天神堂古墳 22.仏生寺城跡 23.江上A遺跡 24.辻遺跡 25.浦田遺跡

弥生時代、特に後期から古墳時代初期には上市町江上A遺跡のような大集落や、滑川市魚野遺跡富山市金尾遺跡、清水堂南遺跡等の集落の存在がある。

古墳時代になると、白岩川本・支流域で、県内では希少な平野部の古墳群「白岩川流域古墳群」が形成される。上流部の丘陵尾根上には柿沢古墳群が存在し、中・下流域の平野部では稚児塚（円墳）・竹内天神堂（前方後円墳）・塚越（円墳）・清水堂古墳・宮塚（方墳）・若王子塚等が見られる。このうち、清水堂古墳は平成7年度の試掘調査で周濠を有する直径約30mの円墳であることが確認されている。

奈良時代では、古代官衙跡と推定されている水橋荒町遺跡が、常願寺川河口右岸に存在する。大型、小型の掘立柱建物群が検出され、石製帯飾り（丸輪）が出土している。また、近隣の立山町二ツ塚から舟橋村仏生寺周辺は「東大寺領大藪荘」の比定地とされており、その南に位置する辻遺跡も含めて、関連が興味深い。

古代～中世にかけては、立山町を中心とした山地縁辺部で須恵器生産が行われ（上木窯）、中世末～近世には越中瀬戸焼の生産が隆盛した。遺跡からの出土例も多く報告されており、水橋地区一帯が消費地の役割を担っていたと考えられる。

中世後半から近世初期にかけては、小出城や仏生寺城等の城館が築かれ、池田館・的場・馬場・専光寺などの地名として現在も残っている。

## II 調査に至る経緯

平成7年に平成8年度の新規採用事業として、上条南部地区の農道整備計画が富山県農地林務事務局（以後「県農地」とする）より立案された。平成8年に測量設計を行い、5～6年の工期で国道415号線から国道8号線を横切り、現在工事進行中の清水堂地区は場整備事業地を通るもので、ほ場整備事業に対して地元要望としてあがったものであった。農道の計画は、全幅12.2m、総延長1,330mで、既設の農道がある部分はそれを拡張し、それ以外の部分は新設するものである。

これに対して市教委は県農地、富山県埋蔵文化財センターと協議を行い、農道計画は、国道8号線以北では白岩川河川敷の金尾遺跡、水橋北馬場遺跡にかかり、以南では富山市平野部に残る数少ない古墳である宮塚古墳と若王寺古墳の間を抜け、HS-07遺跡を横切るルートに設計されているため、試掘調査が必要であり、また重要な遺跡にかかるためルート変更も考慮してほしいと回答した。

しかし、平成9年の協議で農道にかかる部分の用地買収が進んでいることから、設計計画のルート変更は不可能となり、当初計画どおり工事が行なわれることとなった。工事計画では新設される農道が現存する「神明社」の敷地全域にかかるため、当該社が西に隣接する代替地に移転することになり、農道計画事業地とあわせて試掘調査を行なうこととなった。

それを受けて市教委は平成10年3月に神社代替地から宮塚・若王寺古墳の手前まで890㎡の試掘調査を行い、現在使用されている仮設の農道の下も含めてほぼ全域に遺跡の所在を確認した。

調査では、現地表面下約20～45cmに土質質土器・越中瀬戸焼・珠洲等の遺物を含んだ中世～近世の遺構を検出し、集落跡の存在が想定された。その結果に基づき、神社代替地の建物にかかる85㎡については発掘調査を行なうこととし、平成10年8月より発掘調査に着手した。

### Ⅲ 調査の概要

#### 1 調査の経過

発掘調査は、平成10年8月17日より着手した。調査範囲は社殿建設予定地85㎡とし、重機で包含層直上まで表土排土を行なった。その後、作業員によって手掘り作業で調査区周辺に排水溝を掘削し、調査区全域について遺物包含層及び遺構発掘を行い、土層断面実測、遺構実測、遺物実測・取り上げ、写真撮影を行なった。現地調査は9月16日まで行い、9月17日で引渡しを完了した。

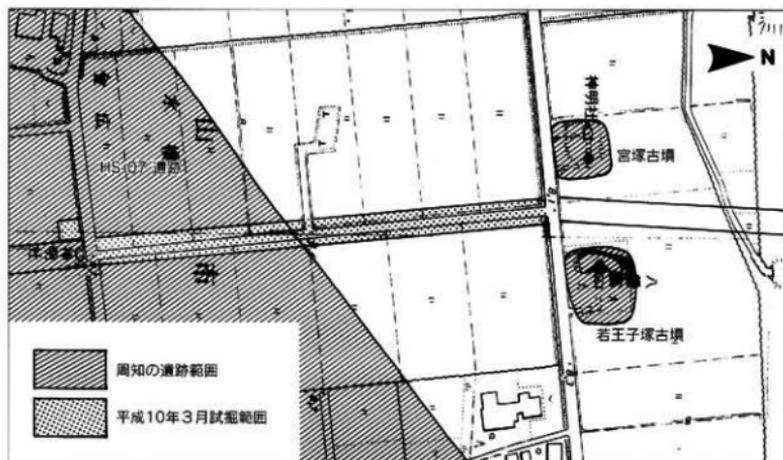
#### 2 自然地形

調査区は幅約7m、長さ約11mの東西に長い長方形である。標高は約9mで現況は平坦地であるが、旧地形は南から北へ、東から西へ緩やかに傾斜し、南部が高くなっているのが確認された。試掘調査によって調査区周辺に遺跡の所在が確認されており、白岩川右岸微高地上に遺跡が営まれていたと考えられる。

また、調査区北西から南東に向かって自然流路（SDO1）が検出されており、改修前の白岩川の氾濫跡と考えられる。

#### 3 基本層序（第4図）

耕作土より下層遺構面まで約50cmをはかる。第1層水田耕作土、第2層灰褐色土（耕盤土）、第3層の暗褐色土は遺物包含層で、越中瀬戸焼、土師質土器が出土した。第4層は淡褐色土層で上層遺構が検出された。さらに第5層として暗黒褐色粘質土、その下に第6層として白色粘質土の基盤層があり、下層遺構の検出面は第5層と第6層の境界であった。第6層では初水が見られる。



第2図 工事区域にかかる遺跡範囲（南側部分 1：2,500）

#### 4 遺構 (第3図)

大別して上層と下層に分けられる。上層遺構は中～近世期の遺物の出土があるが、白岩川の氾濫等、水害の影響を受けており、近隣からの流れこみと考えられる弥生・古代の遺物も含んでいる。下層にあたる遺構は、先立って行なわれた試掘調査から中～近世期の集落の広がりが見出されており、今回の調査で検出された溝・穴等は、これに係る施設と考えられる。

##### 上層遺構

###### SDO1

SDO6の覆土を切りながら、北西から南東へ延びる溝。深さは北西で40cm、南東で50cm、幅90cmをはかる。白砂と黄褐色土が混じりあいながら堆積しており、流れの方向の上流に白岩川の旧流路があったことから、氾濫等によって形成された自然流路と考えられる。出土遺物は珠洲、越中瀬戸、中世陶磁器がある。試掘時に富山市で2例目となる青白磁片が出土した。

###### SDO2・SDO3

ほぼSDO1と平行して延びる小溝。深さは南東で6cm、北西では10cm。幅は30cmをはかり、調査区中央に位置する。SDO3はSDO2と同様の黄灰褐色覆土を持ち、深さ3cm、幅15cmをはかる。ともに素掘り溝と呼ばれるものである。

###### SDO4・O5

調査区南西端に位置し、SDO1と平行する。SDO4は深さ6～8cm、幅35cm。SDO5は深さ4cm、幅25cm。上層ビットと同じ暗灰褐色の覆土を持つ。これらも素掘り溝である。流れ込みと思われる弥生土器が出土した。

###### P1・2・3

調査区中央部、SDO1に沿って検出された。暗灰褐色の覆土を持ちSDO2・O3と同時期に形成されたと推測できる。

###### P4・6・8

調査区西側、SDO1に沿って検出された。暗褐色の覆土を持つ。P1・2・3と同時期と考えられる。

##### 下層遺構

###### SDO6 (第5図)

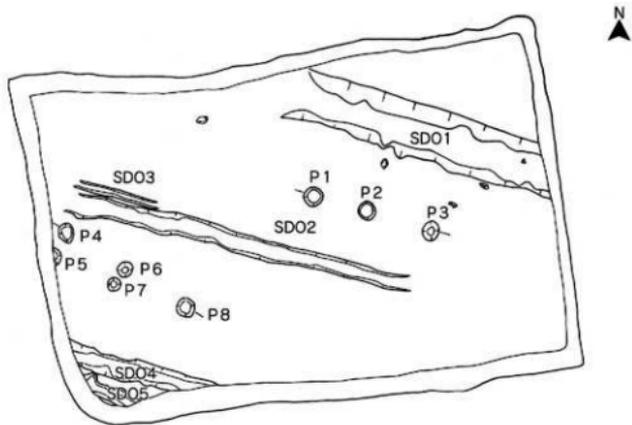
調査区北半分を占める大溝。幅170cm～210cmで調査区南東から北西へ延びる。深さは南東で30cm、北西で60cmと深くなる。上層および同時期の溝がこれと同方向に平行に設置されている。覆土は黒灰色粘質土で地山は白色粘質土である。ここからは木製品、珠洲、青磁、土師質土器が出土した。

###### SDO7 (第5図)

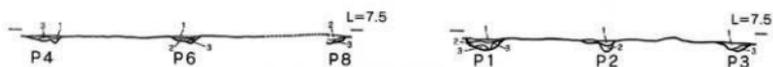
調査区北をSDO6に平行して検出された溝。調査範囲外に延びているため、全幅の検出はできなかったが、深さは40～60cmを計る。

###### SKO1 (第5図)

調査区南東端で検出された土坑。今回の調査では全体の半分の検出に留まったが、深さ70cm、半径200cmの隅川形プランを持つ。覆土はSDO6と同様の黒灰色粘質土であるが、SDO6の屑を切っで設けられているため、やや新しいと考えられる。遺構内からは板状木製品、箸状木製品、珠洲焼、土師質土器が出土し、覆土中には植物遺体や甲虫の破片等の昆虫遺体が多く含まれていた。地山面からは湧水も見られた。

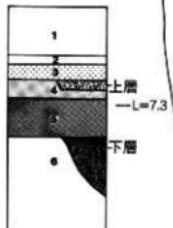
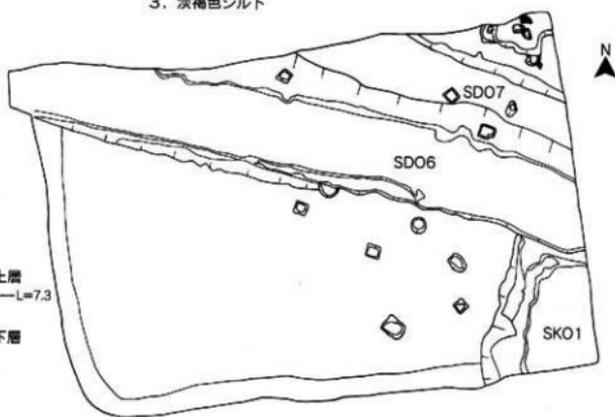


上層 (1/80)



1. 黒褐色土 (茶褐色土含)
2. 黒褐色土 (淡褐色土含)
3. 淡褐色シルト

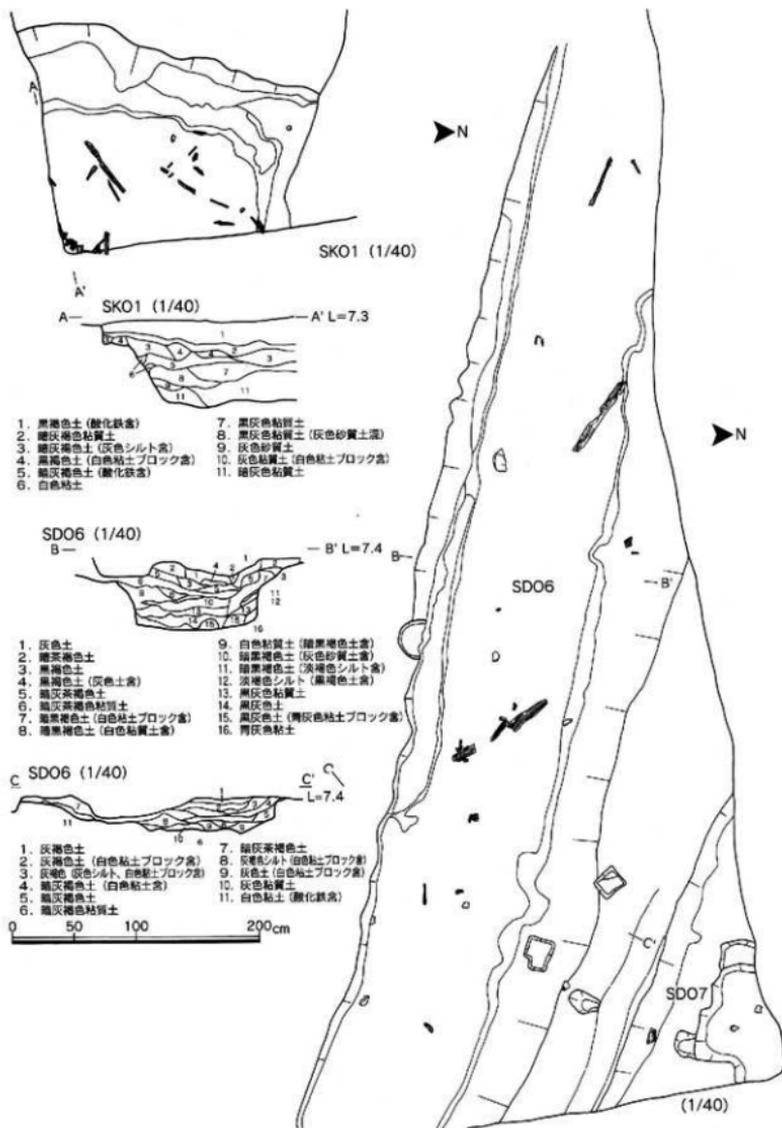
上層エレベーション (1/40)



第4図 基本層序 (1/40)



第3図 遺構図及びエレベーション図



- 1. 黒褐色土 (酸化鉄富)
- 2. 暗灰褐色粘質土
- 3. 暗灰褐色土 (灰色シルト富)
- 4. 黒褐色土 (白色粘土ブロック富)
- 5. 暗灰褐色土 (酸化鉄富)
- 6. 白色粘土
- 7. 黒灰色粘質土
- 8. 黒灰色粘質土 (灰色砂質土富)
- 9. 灰色砂質土
- 10. 灰色粘質土 (白色粘土ブロック富)
- 11. 暗灰色粘質土

- 1. 灰黄色土
- 2. 暗茶褐色土
- 3. 黒褐色土
- 4. 黒褐色土 (灰色土富)
- 5. 暗灰茶褐色土
- 6. 暗灰茶褐色粘質土
- 7. 暗茶褐色土 (白色粘土ブロック富)
- 8. 暗茶褐色土 (白色粘質土富)
- 9. 白色粘質土 (暗茶褐色土富)
- 10. 暗茶褐色土 (灰色シルト富)
- 11. 暗茶褐色土 (淡褐色シルト富)
- 12. 淡褐色シルト (黒褐色土富)
- 13. 黒灰色粘質土
- 14. 黒灰色土
- 15. 黒灰色土 (暗灰色粘土ブロック富)
- 16. 青灰色粘土

- 1. 灰褐色土
- 2. 灰褐色土 (白色粘土ブロック富)
- 3. 灰褐色 (灰色シルト, 白色粘土ブロック富)
- 4. 暗灰褐色土 (白色粘土富)
- 5. 暗灰褐色土
- 6. 暗灰褐色粘質土
- 7. 暗灰茶褐色土
- 8. 灰褐色シルト (白色粘土ブロック富)
- 9. 灰黄色土 (白色粘土ブロック富)
- 10. 灰黄色粘質土
- 11. 白色粘土 (酸化鉄富)

第5図 遺構図及び横断面図

## 5 遺物 (第6~8図)

今回の調査では、包含層・上層遺構・下層遺構から弥生土器、須恵器、土師質土器、珠洲焼、越中瀬戸焼、近世陶磁器、木製品が出土した。

### 土器

1・2は弥生土器の高杯の脚部である。1はSDO6、2はSKO1より出土したが、付近からの流れ込みの遺物と考えられる。

2は古代の須恵器の右台杯である。包含層より出土した。

4~7は中世の土師質土器である。4は包含層より出土した。非ロクロ成形の灯明皿である。5はSKO1より出土した。ロクロ成形で回転糸切り底をもつ。6はSKO1より出土した。ロクロ成形で回転糸切り底をもつ。4、5ともに13世紀後半から14世紀前半と推測される。7はSKO1より出土した。非ロクロ成形で中世前期13~14世紀代と推定される。

8~12は珠洲焼である。8はSDO1覆土より出土した甕の口縁部で、外面は平行叩き目を残す。吉岡編年(吉岡1994)V期に属する。9はSDO6覆土より出土した甕の肩部で、外面に8よりもやや密な平行叩き目を残す。吉岡編年V期に属する。10は包含層出土の片口の摺鉢である。1単位18条の細歯の叩し目を持ち、VI期に属する。11は片口鉢の底部である。叩し目は持たない。VI期に属する。12は包含層出土の甕の底部である。白雲母が大量に含まれる。13はSDO6出土の甕の体部である。外面に平行叩き目を残し、内面は当て具痕をなで消す。8とほぼ同時期と思われる。8~13すべての胎土に海綿骨針が含まれる。

14~15は越中瀬戸焼である。14は灰釉内禿の印花文小皿でSDO1から出土した。端部がやや外反し、体部内面には軸止めの段がある。外面の下部は露台で削り込み高台をもつ。17世紀初めに属する。15は黒色鉄釉の天目茶碗で包含層より出土した。体部外面下部は露台である。14とほぼ同時期と思われる。

16は瀬戸美濃の天目茶碗である。包含層より出土した。15世紀寄窯後期のもので内反り高台をもつ。

17は伊万里である。包含層より出土した。染付碗で高台内に落款を入れる。18世紀に属すると推定される。

18はSDO6覆土出土の龍泉窯系青磁である。鑄蓮弁文でオリブ色の釉がかかる。13世紀に属すると推測される。

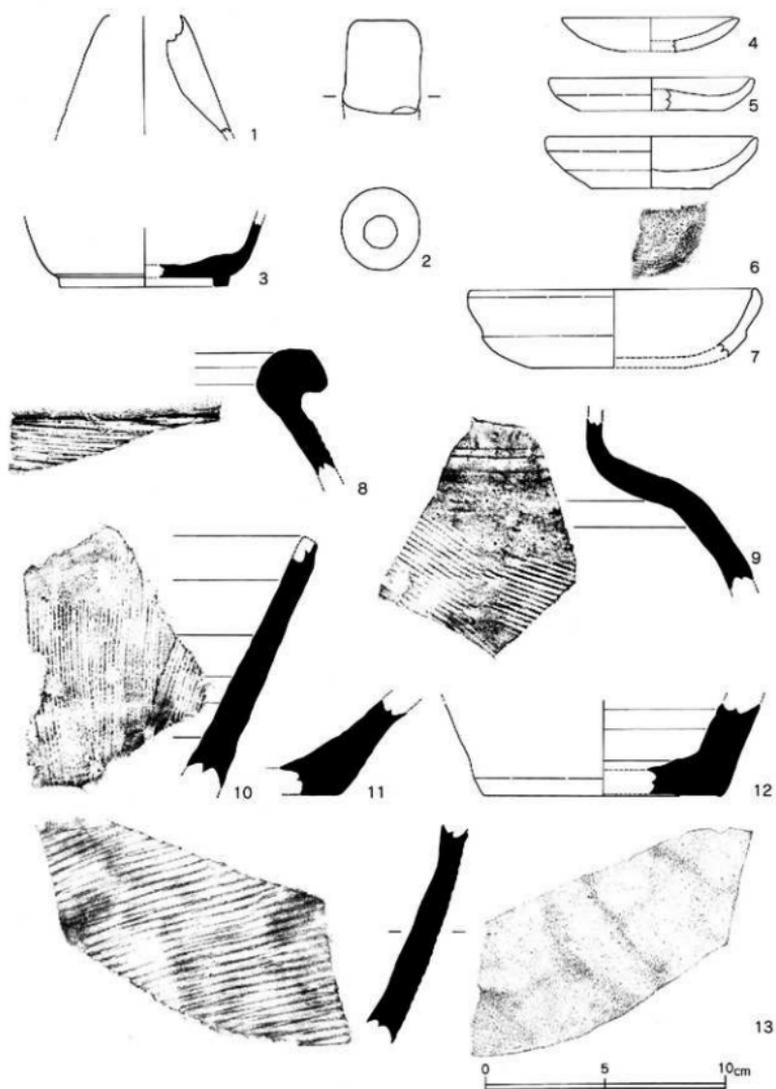
19は青白磁の梅瓶の体部である。試掘調査時に出土し、今回調査区ではSDO1検出地点にあたる。樽状具による唐草文が施され、空色の釉がかかる。北宗窯期で13世紀前後の年代が与えられる。

### 木製品

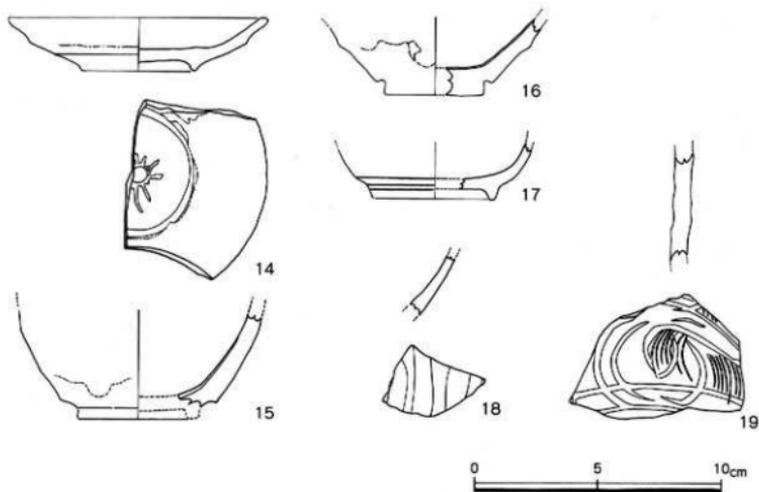
木製品は主にSDO6、SKO1から出土した。SDO6からは厚みのある板状・杭状の加工木が出土し、SKO1からは幅が狭く薄い板状の加工木および箸状の木製品が出土している。

1~3はSKO1出土の箸状木製品である。先端が欠損するものが多く、断面は方形を呈する。

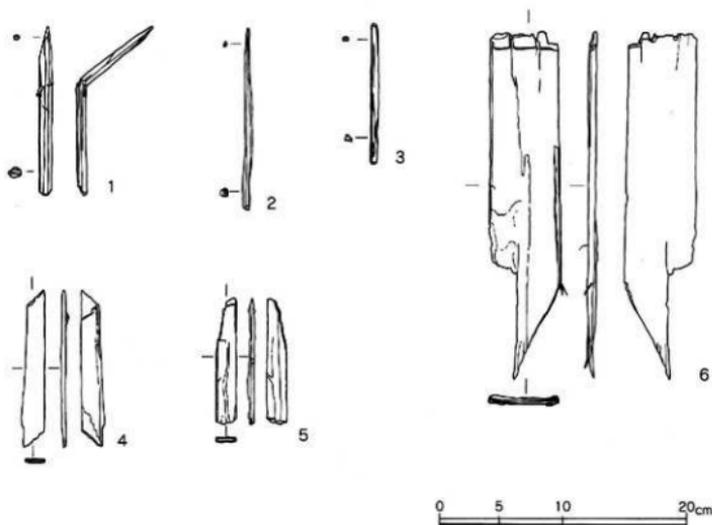
4~6は板状木製品である。4・5はSKO1から箸とともに出土している。幅1.5~2cm、厚み3mmと同形に加工されている。6はSDO6より出土した。厚みは8mmとSKO1出土のものよりも肉厚である。樹種は4~6とも針葉樹で同じと思われる。



第6図 出土遺物実測図(1) 土器(1/2)



第7図 出土遺物実測図(2) 中世陶磁器(1/2)



第8図 出土遺物実測図(3) 木製品(1/4)

## IV 小結

今回の調査は約85㎡という狭い面積であったため、遺跡の性格を決定付けることは難しいが、下層遺構のSD06・07及びSK01は、ともなう遺物から13世紀後半から14世紀にかけての中世前半に営まれた排水溝等の施設であると推定できる。その上層のSD02～05は、出土遺物から中世後半にかけて営まれたと考えられ、調査区の北側の試掘調査でも、同じレベルの黄褐色土山から中世後半から近世にかけての遺物及び遺構が検出されている。この地域に、中世前半・中世後半～近世にかけての2時期に集落が形成されていたと考えられる。

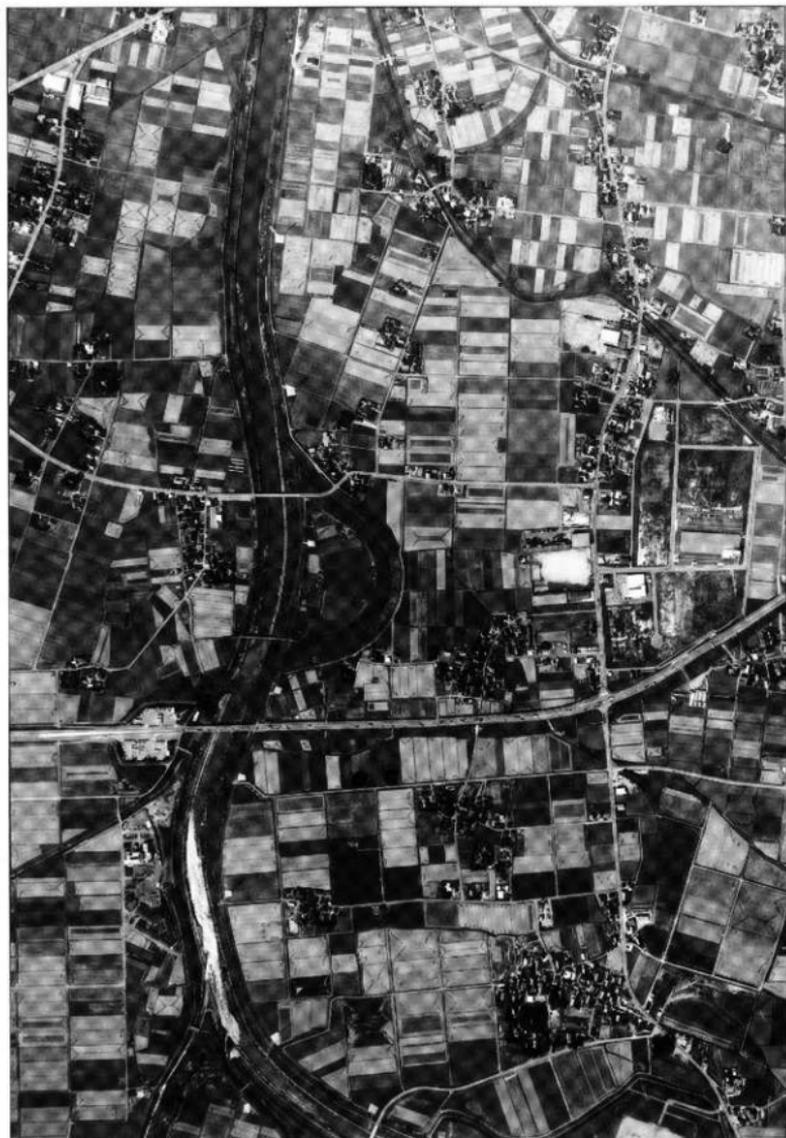
また、調査区上面は排水のための暗渠が数ヶ所設けられており、設置、改修の際に受けた掘削によって、上層遺構上面は擾乱を受けていた。擾乱面の直下より切り込まれているSD01は、近世以降河川改修に至る間の水害の跡を留めており、かつて白岩川の氾濫によって神明社が何度か流され、現在の位置に移転したという地元の伝承を伝えるものであった。

### 参考文献

- 北陸中世土器研究会 1997 『中・近世の北陸』
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』
- 吉岡康暢 1989 『日本海域の土器・陶磁 中世編』



第9図 明治43年大日本帝國陸地測量部測圖地形図 (1:50,000)



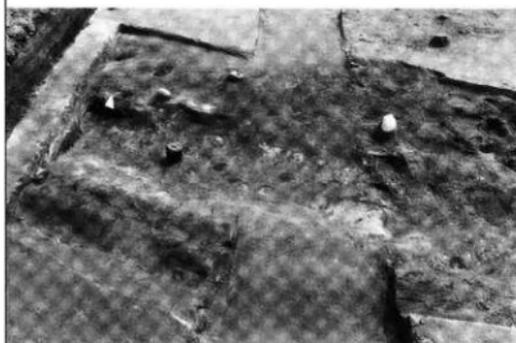
遺跡周辺の航空写真 (1/10,000)



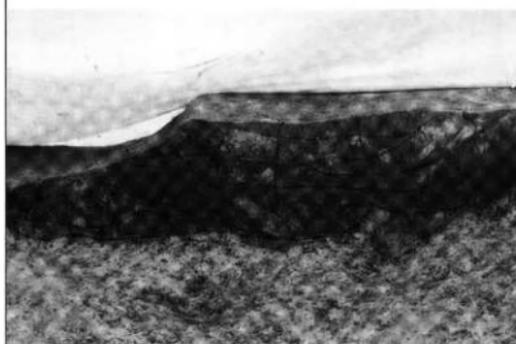
HS-07 遺跡調査区全景



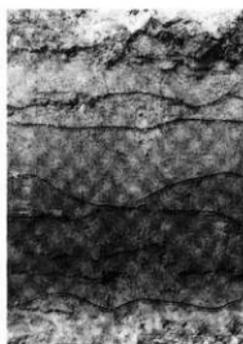
1. 透景



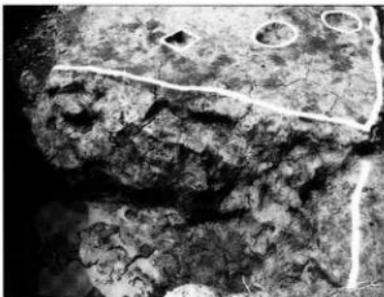
2. SDO2



3. SDO1 断面  
調査状況 (1)



4. 基本層序



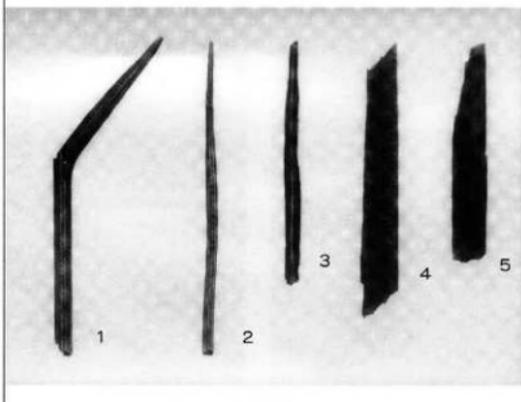
1. SKO1



2. SKO1 木製品出土状況



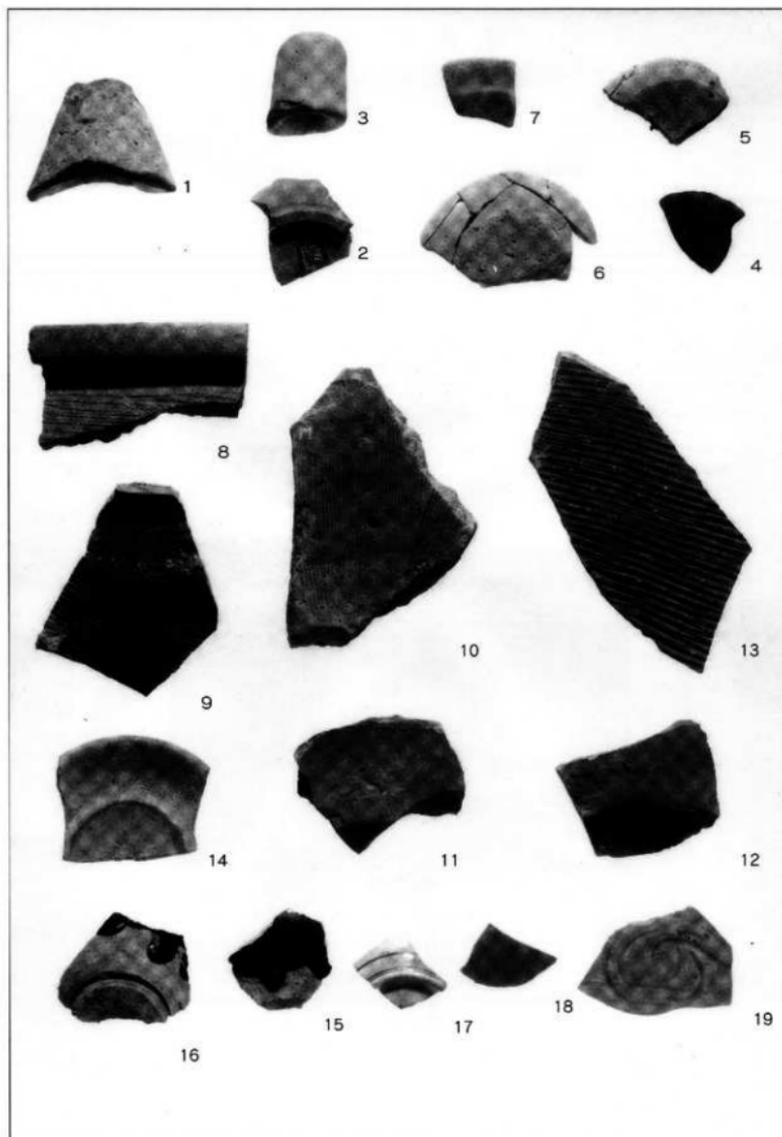
3. 調査区より宮塚古墳 (左) 若王子古墳 (右)



出土遺物 (1) 木製品 (番号は第8図に同じ) 1/2



6



出土遺物 (2) 土器・陶磁器 (番号は第6・7図に同じ) 1/2

## 報告書抄録

ふりがな	ふりがな		ふりがな		ふりがな		ふりがな	
書名	富山市	HS-07	遺跡	発掘調査概要				
副書名	縣営農免農道整備事業（上糸南部地区）に伴う神社移転地内発掘調査							
編著者名	近藤麗子							
編集機関	富山市教育委員会							
所在地	〒930-0005 富山県富山市新坂町7番38号			TEL 076-443-2138				
発行年月日	西暦 1999年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (対象)㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
HS-07遺跡	富山県富山市水橋金広73-2	16201	580	36度 42分 58秒	137度 19分 14秒	19980817 ～ 19980916	85	県営農免農道 整備事業に伴 う神社移転
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
HS-07遺跡	集落跡	中世	穴、溝 土坑		珠洲、越中瀬戸焼、土師瓦土 器、古瀬戸青磁、青白磁、伊 万里、唐津、種子木製品			



調査参加者

## 富山市HS-07遺跡発掘調査概要

編集・発行 富山市教育委員会  
富山市新坂町7番38号  
☎076-442-4246

印刷 株式会社 ニッポー  
富山市南央町3番31号  
☎076-429-7800

発行日 平成11年3月31日

